

●けいはんなホール

前回検証結果	要 改 善 ・老朽化による施設改修も見据え、設置目的や必需性、今後の費用負担も含めて検証し、関西文化学術研究都市エリアの戦略も踏まえた中長期的な施設のあり方を検討すること。
対応・改善策実施状況、取組の成果	・コロナ禍前の利用者数は平成 30 年 143,173 人、令和元年 123,751 人であり、直近は令和 6 年度 122,242 人、令和 7 年度 146,749 人と、コロナ禍前を上回る水準に達している。 ・指定管理者の経営努力に加え、けいはんなホールの利用促進を図るための組織「けいはんな学研都市活性化促進協議会」が年間 15 件程度の文化芸能関係イベントを継続して開催していることや、コンベンション誘致のため本都市独自の協議会を組織し継続的に誘致活動を実施してきていることなどの効果が現れている。 ・令和 7 年 4 月～10 月には産学公住が連携して「けいはんな万博 2025」を開催。ロボット・アバター・ICT、ウェルビーイング、スタートアップ、サイエンス&アートの 4 つのテーマで 70 を超えるイベントを開催し参加者は 20 万人を超えた。けいはんなホールでは 1,000 名以上を集めた開会式や閉会式、千玄室大宗匠の講演会やノーベル賞受賞者 2 名による講演会などが開催され、メイン会場として大きな賑わいを見せた。 ・令和 8 年度は万博のレガシーを引き継ぐ形で様々な事業を開催予定であり、けいはんなホールの大型集客イベントとしては「京都スマートシティエキスポ 2026」や「R&D フェア」などの開催を予定している。
なお残る課題・問題点	◆築33年が経過しており、建物・設備の老朽化が進行し、多額の修繕費用が必要 ◆長期間赤字が続いている
府民サービス等改革検討委員会による改善意見等	□日本国内の研究支援団体との関係強化を通じて利用度の向上を目指せないか。 □国内のみならず、世界をターゲットに営業活動を展開できないか。 □赤字が常態化していることや老朽化に伴う支出の拡大については、関西文化学術研究都市エリアにおける全体構想の中で検討していくべき課題と思料。

京都府の検証結果及び対応方向	要 改 善 <改善方策> ◎利用率向上に向けて、海外含め、関係団体との連携強化や営業活動を促進すること。 <今後の対応> ○コンベンション誘致の継続や多様な交流の場としての利用促進を図るとともに、「第5期ステージプラン」の実現に向け、関係機関とのネットワーク構築や交流・情報発信の中核拠点として活用を強化する。 ○施設の老朽化が進み、改修を要する箇所が増加している中、物価上昇の影響も加わり、多額の費用が必要となるため、建物の大規模改修や設備機器の更新に向けた対応策を、計画的かつ段階的に進める。
-----------------------	---